

# 令和7年産 夢つくしの収穫・乾燥・調製について

令和7年8月  
粕屋農業協同組合  
営農販売課

【 出穂期以降高温が続き、充実不足が予想されます。

早期落水を控え、米の充実を図りましょう！！】

- ・良質米は適期刈り取りが決め手です、刈り遅れのないように。
- ・早期落水は、やめましょう。
- ・美味しい、求められる「粕屋米」を生産しましょう。
- ・米は全量JAへ出荷しましょう。

## 重点事項

### 1. 適期刈り取りの励行

立毛胴割れ・茶米の発生防止 ・・・ 糊水分 28~24%

\*普通期栽培とは気象条件が大きく異なり、収穫時期が高温期にあたり、にわか雨等が多くなります。収穫・乾燥作業で胴割れ米の発生等による品質低下をさせないよう注意してください。

\*落水期は、目安として刈り取り一週間位前に実施して下さい。

\*落水が早すぎると、登熟不良や胴割れの原因となります。

### 2. 適正水分の厳守 (急激乾燥・過乾燥の厳禁) ・・・ 水分 14.5~15.0%

※1%過乾燥で、60kgあたり約700g損失します。

★ 過乾燥 (玄米水分 13.0%未満) は、規格外扱い

高水分 (玄米水分 16.0%以上) は、集荷不可となりますので、

十分注意して乾燥作業を行なって下さい。

### 3. 整粒歩合の向上 ・・・ 80%以上

\*栽培管理日誌を必ず記帳しましょう。(各プラザ・各支所へ提出願います)

## 1. 適期刈り取り

刈り取りが極端に早すぎると、青米や未熟粒が増え品質や収穫量が低下します。反対に遅すぎると、胴割れ・茶米が増え、光沢も悪くなつて品質・食味が低下します。遅く開花した穀はある程度犠牲にして、大部分の穀が実り、また早く実った穀も過熟にならぬうちに刈り取りを行いましょう。

### ※刈取適期の目安

- (1) 穀の70%程度が黄化した時期から収穫を開始し、遅くとも80%が黄化するまでには収穫する。(葉や穂軸はまだ緑色の状態となります。穀の熟れ具合で収穫適期を判断しましょう。)
- (2) 出穂期より、積算気温 850°C～1050°C (おおむね 30～34 日後頃)

田植日	出穂期	積算気温による刈取予想(平坦地基準)
5月18日	7月25日頃	8月24日～8月28日頃
5月25日	7月31日頃	8月30日～9月 3日頃
6月 1日	8月 2日頃	9月 1日～9月 5日頃
6月 8日	8月 5日頃	9月 4日～9月 8日頃

(8月6日時点)

(注) 今後の気象状況や土壤条件等で、刈り取り時期は変動します。

カントリーエレベーターの荷受けは検見会で決定後、プラザから連絡致します。

## 2. 収穫上の注意

1. 麦類、他品種等の混入防止のため、コンバインやコンバイン袋等の清掃を徹底しましょう。
2. コンバイン収穫の場合は、茎葉が青く穀の水分も比較的高いので、刈り取り速度やこぎ胴の回転数を上げすぎないようにしましょう。
3. 収穫後はムレやすいので、炎天下で長時間の圃場内放置は避けましょう。1～2時間以内に乾燥機に移し、速やかに通風乾燥をおこないましょう。

## 3. 乾燥上の注意

1. 乾燥機の清掃を徹底して下さい。(麦類、異品種等の混入防止)
2. 多品種を作付してある方は、品種ごとの乾燥前に清掃を徹底して下さい。
3. 外気温が高い時に高水分の穀を乾燥するため、許容範囲内での下限温度で乾燥し、急激な高温乾燥は絶対しないようにして下さい。
4. 高水分から22%位までの乾減率(乾燥速度)が特に食味に影響します。出来るだけ低温でゆっくり乾燥し、途中で水分平均化のため、休止乾燥(水分18～20%程度)を5～6時間位行い、再度乾燥しましょう。また、仕上げ乾燥前で一旦乾燥機を停止し穀水分を確認して、余熱乾燥から仕上げ乾燥(水分14.5～15.0%)にもっていきましょう。
5. 穀水分の測定は、10分程度放置して、粗熱が冷めてから行いましょう。穀水分にバラつきがあるため、多くのサンプルを取って平均値を出しましょう。

## 4. 穀摺り・調製上の注意

- ・穀摺り前に穀水分を確認しましょう(14.5～15.0%)。
- ・フルイ目を1.85mmにして、未熟米や被害粒を落とし整粒歩合を高め、食味向上に努めましょう。

★収穫の秋は農作業事故が多発します！特にコンバイン操作は慎重に！！